

ブルンジ月報（2019年5月）

主な出来事

【内政】

- 7日、ンクルンジザ大統領は、国内の治安維持の強化を呼びかけた。

【外政】

- 9日、駐ブルンジEU大使は、ブルンジに信頼回復のための対話を呼び掛けた。

【経済】

- ブルンジ北部で、ヤギなどの家畜への伝染病が発生している。

※以下は、明示したものを除き、ブルンジ・オンライン・メディア Iwacu の報道を取りまとめたもの。

【内政】

・ンクルンジザ大統領による治安強化命令（9日）

7日、ンクルンジザ大統領は、ギテガの行政及び治安職員に対して、国境警備を強化するとともに、治安の混乱を防ぐために人々の動きを監視するよう求めた。また、国内に不法滞在する外国人に対して自国へ追放するよう求めた。

【外政】

・EU大使による対話の呼び掛け（10日）

9日、ヴェッター（Wolfram VETTER）駐ブルンジEU大使は、3年以上にわたりブルンジとEUの関係が良くないと認めつつ、「ブルンジ、EU双方に利益となる信頼を取り戻すために、対話し、共に働こう。」と呼び掛けた。

【経済】

・ヤギ、羊などの反すう動物に伝染病発生（29日）

5月初めから、ブルンジ北部のンゴジ（Ngozi）県で、家畜用のヤギなどの間で伝染病が広がっている。感染したヤギは深刻な下痢となり、1週間以内で死に至る。同県では、26日からヤギ肉と羊肉の売買を禁止している。

【その他】

・妊産婦死亡率の劇的な改善（16日）

15日、ティエモコ（Richmond TIEMOKO）国連人口基金（UNFPA）ブルンジ代表は、世界の人口状況に関する年次報告書を紹介し、2010年には10万人中500人であつ

た妊産婦死亡件数が、 2016年には334件に減少し大幅に改善したと述べた。

(了)